

## 第48回（2011年度）ベルツ賞受賞について

ベルツ賞は、日独両国間の歴史的な医学関係を回顧すると共に、両国の親善をさらに深め日本における医学会の研究活動を支援する目的で、1964年にドイツの製薬会社ベーリンガーインゲルハイムによって設立された賞です。毎年特定の医学の分野に関する学術論文の募集を行い、優れた論文に対して賞を贈呈するという最新の研究を重視する医学賞で、数多くの日本の医学賞の中でも、最も権威あるもののひとつとして認められています。

2011年11月25日、東京・南麻布のドイツ連邦共和国大使館・大使公邸で、「アルツハイマー病」がテーマと定められた第48回ベルツ賞の贈呈式が執り行われ、国立長寿医療研究センター 認知症先進医療開発センター長 柳澤勝彦らの研究チームが本年度の一等賞を受賞いたしました。なお、受賞論文名と受賞者は以下の通りです。

「アミロイド蓄積開始機構の解明と治療薬開発への展開」

柳澤 勝彦<sup>1)</sup> センター長

松崎 勝巳<sup>2)</sup> 教授

加藤 晃一<sup>3)</sup> 教授

<sup>1)</sup> 国立長寿医療研究センター 認知症先進医療開発センター

<sup>2)</sup> 京都大学大学院 薬学研究科 薬品機能解析学分野

<sup>3)</sup> 自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 生命環境研究領域 生命分子研究部門

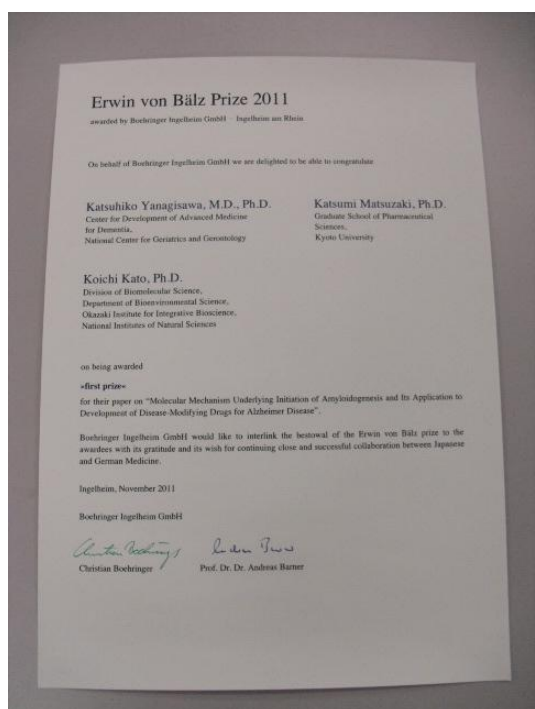
【授賞式写真】



【授賞式写真（柳澤 勝彦 センター長）】



【賞状】



【メダル】



【バーリンガーインゲルハイムHP】

[http://www.boehringer-ingenelheim.co.jp/com/Home/Newscentre/pressrelease/news\\_detail.jsp?paramOid=13265](http://www.boehringer-ingenelheim.co.jp/com/Home/Newscentre/pressrelease/news_detail.jsp?paramOid=13265)